

箕面新キャンパス 施設基本方針

A) 整備方針

- A－１）安全・安心・快適・清潔で、静寂さを保ち、多様な交流と地域連携が推進でき、世界水準の教育研究が展開できるキャンパスとする。
- A－２）様々な利用形態や将来の変化に対応可能な、多目的でフレキシブルに活用できる施設・設備とする。
- A－３）維持管理・運営面において部局間の連携協力が図られ、集約化・効率化された施設・設備とする。
- A－４）施設利用者の言語・文化・ジェンダーの多様性やマイノリティに配慮したユニバーサルデザインとする。
- A－５）エリアマネジメントを念頭において、多様な交流が展開できるスペースを計画・維持管理・運営する。
- A－６）ライフサイクルコストに配慮したスマートでサステイナブルなキャンパスとする。
- A－７）教育研究施設は、日本人学生・留学生・教職員等の知の交差を誘発させる屋内共用スペースの充実化を図る。
- A－８）学寮は、設計・建設・維持管理・運営を効率的、効果的にトータルマネジメントできるPFI手法にて整備する。

B) 交通アクセス・アプローチ方針

- B－１）低炭素化に配慮し、自動車・バイク利用を抑制した公共交通を主とする通学・通勤を促進する。
- B－２）デッキ等を活かし、歩行者優先の安全かつ快適なバリアフリーに配慮したアプローチとする。
- B－３）学寮と教育研究施設のアプローチは、生活空間と修学空間の違いを意識させる計画とする。
- B－４）一般車両・バイク・自転車は箕面市にて整備される駐車・駐輪場を利用し、車いす使用者・来客・サービス用等車両は敷地内に適切に駐車場を確保する。
- B－５）学内連絡バス・行事バス等の大型車両のアクセスを想定した計画とする。
- B－６）物品搬入等の適切なサービス動線を確保する。

C) 省エネルギー方針

- C－１）知的生産の場として必要な快適な環境を少ないエネルギー消費で実現する。
- C－２）居住者に対する冷暖房環境設定や寒冷な気候に対する断熱気密に配慮する。
- C－３）省エネルギーで、できる限り先進的で適切な管理ができる設備方式とする。
- C－４）再生可能エネルギー導入等の検討や低炭素建築物基準を目指す。
- C－５）大阪大学の研究のアウトリーチの一つの形として、大阪大学にゆかりのある技術の導入を目指す。

D) 防犯・防災・安全衛生・セキュリティ方針

- D－１）安全と健康に配慮し、キャンパス内の快適性と知的生産性を確保するため、動線・日照・採光・通風・換気・室温・音の影響等に十分配慮した計画とする。
- D－２）建材・家具等は、快適性を高め、室内空気を汚染する化学物質の発生がない、若しくは少ない材料を採用する。
- D－３）防犯性と安全性の観点から、敷地内、建物内の見通しに配慮した計画とする。
- D－４）災害時の学生・教職員等の安全性と地域の防災拠点としての一定の機能を確保する。
- D－５）エリアマネジメントを念頭において、箕面市等と連携した防犯・防災体制を目指す。
- D－６）適切な監視カメラの設置、入退室管理システムの導入、警備員の配置等により、安全で、安心な教育研究・生活環境のセキュリティを確保する。

E) 外観デザイン方針

- E－１）周辺と調和しつつ、シンボル性の高い外観とする。
- E－２）建物・付属施設・外構・植栽・記念碑・サイン等を総合的にデザインする。
- E－３）環境性能、快適性、動線等が素直に表出するデザインとする。

F) 環境保全方針

- F－１）廃棄物を減量し、リサイクルを推進する上で適正なごみ集積場等の計画を行う。
- F－２）建設副産物の発生抑制、再利用を図ると共に、有害物質の排出抑制等により、大気・水・土壌の汚染防止に配慮する。